
土地分類基本調査

高 梁

5 万分の 1

国 土 調 査

岡 山 県

1 9 7 8

序 文

本県では、人間尊重、福祉優先の理念に立って人間性豊かな地域社会づくりをすすめておりますが、県土の利用につきましても、秩序ある利用計画の下に、土地資源の有効な利用を図ることが重要な課題であると考えられます。

このような観点から本県では昭和50年度から国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査を実施しておりますが、この調査は、県土の地形、地質、土壤について調査するほか、開発関連として防災、開発規制、土地利用現況についても調査するものです。

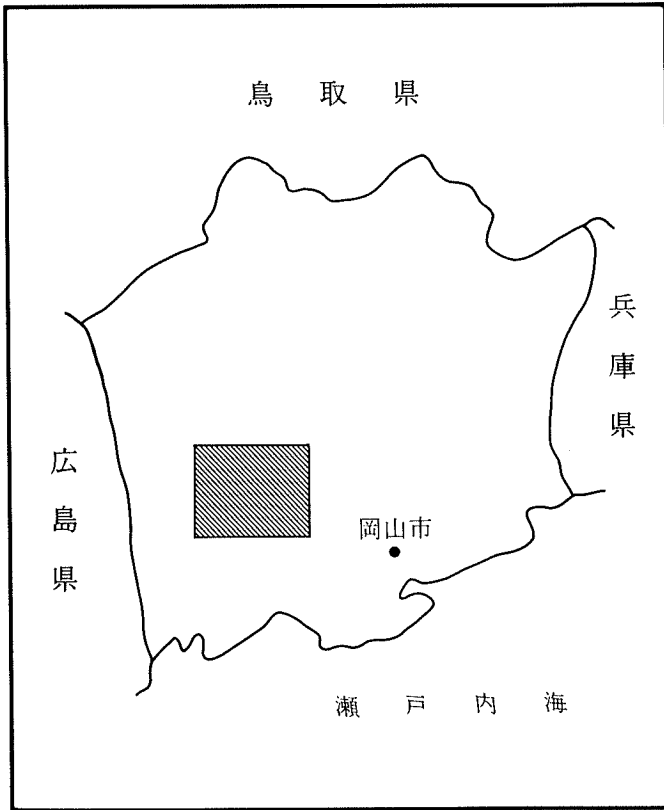
今回調査した「高梁」図幅は、昨年実施した「岡山北部」「福渡」図幅とともに県政の重点施策である吉備高原都市建設計画の対象地域と、その周辺地域を包括し、地域の特性をふまえた総合的・計画的な地域整備が特に望まれている地域であります。そういう意味からも、この調査結果が、今後の開発および各種土地利用計画等の基礎資料として、広くご活用いただければ幸いです。

最後に、本調査の実施にあたって、ご協力いただいた関係市町村並びに関係各位に深く感謝申し上げます。

昭和53年 3月

岡山県企画部長 片山 菊次郎

位 置 図



目 次

序 文 総 論

I 位置および行政区画	1
II 地域の特性	3
1 地勢, 気象	3
2 人口, 世帯数	4
3 交 通	5
4 産 業	5

各 論

I 地 形 分 類	9
1 地形分類と地形概説	9
2 地 形 各 論	12
II 表 層 地 質	16
1 表層地質概説	16
2 表層地質各論	17
III 土 壤	22
1 山地, 丘陵地の土壌	22
2 台地, 低地の土壌	27

IV 傾斜区分	32
V 水系・谷密度	34
VI 防 災	36
VII 開発規制	38
VIII 土地利用現況	40

文化財一覧表

調査担当者一覧

調	整	国土庁土地局国土調査課	
総	括	岡山県企画部土地対策課	課長 木坂敏男
		〃	主幹 桑田和巳
地形分類調査		岡山大学教育学部	助教授 高橋達郎
表層地質調査		岡山大学理学部	教授 光野千春
土 壤 調 査			
（林地土壌）		岡山県林業試験場	専門研究員 木本 弘一郎
（農地土壌）		岡山県立農業試験場	専門研究員 平岡 正夫
開発関連調査			
（傾斜区分調査）		岡山大学教育学部	助教授 高橋達郎
（水系・谷密度調査）		岡山大学教育学部	助教授 高橋達郎
（防 災 図）		岡山県企画部土地対策課	主任 竹谷桂一
（開発規制図）		岡山県企画部土地対策課	主任 前田勝也
（土地利用現況図）		岡山県企画部土地対策課	主任 前田勝也

總 論

I 位置および行政区画

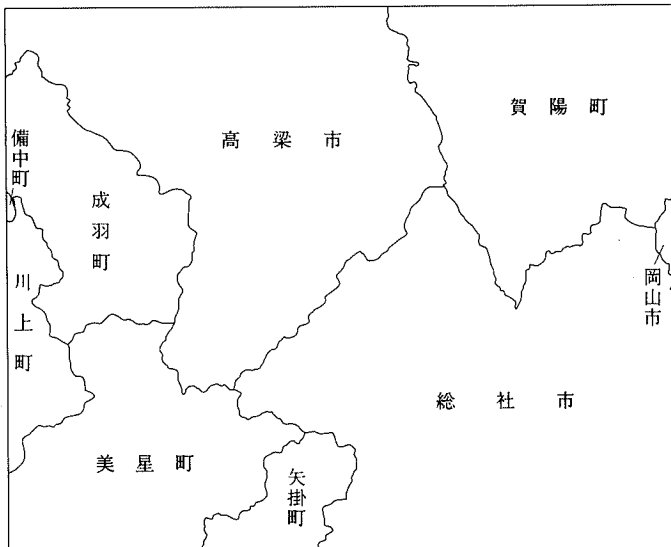
1. 位置

「高梁」図幅は、岡山県の中西部に位置し、経緯度では東経 $133^{\circ}30' \sim 133^{\circ}45'$ 、北緯 $34^{\circ}40' \sim 34^{\circ}50'$ の範囲内である。

2. 行政区画

本図幅の行政区画は、第1図のとおり岡山市、総社市、高梁市、矢掛町、美星町、賀陽町、成羽町、川上町及び備中町の3市6町にまたがっている。

第 1 図



第1表 図幅内市町村別面積

区分 市町村		図幅内面積		市町村面積 (B) Km ²	占有率 A/B (%)
		実数(A)Km ²	構成 (%)		
岡山市		1.25	0.3	510.46	0.2
総社市		134.75	31.7	193.25	69.7
高梁市		110.77	26.1	228.99	48.4
小田郡	矢掛町	11.90	2.8	90.19	13.2
	美星町	49.42	11.6	73.22	67.5
上房郡	賀陽町	67.15	15.8	127.26	52.8
川上郡	成羽町	35.75	8.4	82.05	43.6
	川上町	13.87	3.3	86.81	16.0
	備中町	0.14	0	102.68	0.1
計		425.00	100	1,494.91	28.4

(資料) 建設省国土地理院による

Ⅱ 地 域 の 特 性

1 地 勢 ・ 気 象

(1) 地 勢

この地域は、高梁市、総社市を中心として、岡山県の中西部に位置し、本県の三大河川の一つである一級河川高梁川が図幅の北から東南流し、高梁市で東流してきた成羽川と合流して、総社市を経て水島灘へそそいでいる。

北部には、陣山(598.7m)高村山(553.7m)大和山(608.4m)等の500m~600m級の山地がつかっている。

高梁川沿いには、狭い平担地に集落が発達し、続いて急峻な山腹となり、さらに山頂からはゆるやかな波状の台地がひらけ、吉備高原を形成している。中でも海拔300m~350m級の台地がひらける美星町、賀陽町等は、農業の集約化が進み、酪農、葉たばこ、養豚、野菜等を中心とした農業地域となっている。

(2) 気 象

本図幅の気候は、北部と南部では、幾分異なるが年平均気温14°C降水量1400%~1700%で温暖な瀬戸内型気候となっている。

高梁市における気象概況は第2表のとおりである。

第2表 気 象 概 況 (高 梁)

月別 区 分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均 (年合計)
月別最高気温	7.4	10.5	12.3	17.8	23.5	26.4	30.6	30.9	25.4	21.9	14.0	9.2	19.2
月別最低気温	-2.8	0.0	1.9	6.2	12.5	18.0	21.9	22.8	16.8	12.3	4.4	0.1	9.5
月別平均気温	2.3	5.3	7.1	12.0	18.0	22.2	26.2	26.9	21.1	17.1	9.3	4.8	14.4
月別降水日数	15	14	6	13	14	15	10	12	11	10	10	11	141
月別降水量(mm)	19	89	66	205	175	217	70	110	556	109	58	41	1,715

(資料) 日本気象協会岡山支部 昭和51年岡山県気象月報による

2 人口・世帯数

本図幅内は、典型的な人口減少地域であるが、関係する市町の全体人口は、昭和40年の554,177人から昭和50年には640,718人と15%の増加を示している。これは、産業人口の集中した岡山市および総社市が含まれているためであり、高梁市を初め他の6町はいずれも減少の一途をたどっている。

また、世帯数は、昭和40年の141,124世帯から昭和50年には184,454世帯となり31%の伸びとなっている。

第3表 市町村別人口、世帯数

市町村	年別 区分	昭和40年(A) 国勢調査	昭和45年(B) 国勢調査	昭和50年(C) 国勢調査	指 数	
					B/A%	C/A%
岡山市	人口	417,908	460,542	513,471	110.2	122.9
	世帯数	110,439	125,597	151,056	113.7	136.8
総社市	人口	40,628	43,043	47,027	105.9	115.8
	世帯数	9,275	10,453	12,075	112.7	130.2
高梁市	人口	31,327	28,967	27,701	92.5	88.4
	世帯数	7,186	7,243	7,554	100.8	105.1
矢掛町	人口	19,857	18,665	18,424	94.0	92.8
	世帯数	4,505	4,568	4,695	101.4	104.2
美星町	人口	8,750	7,807	7,105	89.2	81.2
	世帯数	1,865	1,819	1,800	97.5	96.5
賀陽町	人口	11,016	9,731	8,754	88.3	79.5
	世帯数	2,454	2,377	2,331	96.9	95.0
成羽町	人口	9,385	8,158	7,659	86.9	81.6
	世帯数	2,137	2,073	2,086	97.0	97.6
川上町	人口	7,610	6,464	5,705	84.9	75.0
	世帯数	1,677	1,583	1,525	94.4	90.9
備中町	人口	7,696	5,923	4,872	77.0	63.3
	世帯数	1,586	1,442	1,332	90.9	84.0
計	人口	554,177	589,300	640,718	106.3	115.6
	世帯数	141,124	157,155	184,454	111.4	130.7

3 交 通

本図幅における交通は、陰陽連絡の幹線である国鉄伯備線と国道 180 号線が高梁川に沿って南北に貫通し、国道 313 号線が成羽川沿いに整備されているほか、本図幅内各地域と他地域とを結ぶ主要地方道、玉島成羽線・高梁御津線・総社湯山線などの各道路が整備されている。

4 産 業

この地域における主産業である農業は、米をはじめ酪農・果樹・野菜・葉たばこなどを中心とし、そのほか肉用牛・養豚・養鶏など多彩な作目にわたって農業振興がはかられている。高梁市は早くから集約酪農振興地域に指定されるなど畜産地帯を形成しているが、そのほかたばこ等工芸作物の生産も盛んである。

また、総社市の桃・ぶどう、加茂川町の乳牛・ブロイラー・葉たばこ、成羽町の葉たばこ、川上町、矢掛町の鶏卵、美星町の豚・乳牛、備中町のトマト、賀陽町の肉用牛・豚・葉たばこなどそれぞれ地域の特性に応じた農業経営が行われている。

林業については、山林は、アカマツの天然林が多く河川、道路ぞいには広葉樹（天然林）等の雑木も多いが、生産性は低く全体として林業地としての機能は少ない。なお、この地域は県下でも有数のマツタケ産地であるほか、シイタケ等の特殊林産物の栽培もさかんである。

工業については、本図幅内では高梁市の鉄鋼・金属・木材・家具製造業及び総社市の機械器具製造が主なものであるが、関係市町村全域についてみると岡山市の一般機械工具製造・食料品製造・繊維関係等、賀陽町、美星町、矢掛町の繊維加工等があげられる。

第4表 産業別就業人口（昭和50年）

市町村	区分	総 数	第 1 次 産 業			第 2 次 産 業			第 3 次
			農 業	林業狩猟業	漁 業	鉱 業	建設業	製造業	産 業
岡 山 市		247,484	23,147	100	458	218	24,403	47,928	151,230
総 社 市		24,742	4,893	19	12	86	1,940	7,692	10,100
高 梁 市		15,036	3,993	29	19	31	1,358	3,074	6,532
矢 掛 町		10,204	2,421	34	1	15	888	3,310	3,535
美 星 町		4,409	1,936	34	0	7	412	1,065	955
賀 陽 町		5,333	2,869	2	0	0	445	666	1,351
成 羽 町		4,057	1,123	24	1	14	443	882	1,570
川 上 町		3,418	1,414	22	0	14	228	916	824
備 中 町		2,829	1,492	29	2	31	265	382	628
計		317,512	43,288	293	493	416	30,382	65,915	176,725

（資料）国勢調査による（分類不能の産業は第3次産業に含む）

第5表 農業粗生産額（昭和51年）

（単位100万円）

市町村	区分 生産額	耕 作					
		小 計	米	野 菜	果 実	工 芸 農作物	その他
岡 山 市	28,614	23,235	14,471	3,297	3,572	987	908
総 社 市	6,023	4,877	2,399	722	779	781	196
高 梁 市	3,938	2,639	1,214	414	51	847	113
矢 掛 町	2,769	1,819	1,055	309	142	221	92
美 星 町	3,510	1,669	616	315	78	563	97
賀 陽 町	3,860	2,590	1,671	176	41	654	48
成 羽 町	1,018	739	238	144	20	286	51
川 上 町	1,802	934	247	370	65	215	37
備 中 町	1,689	1,006	330	405	18	191	62
計	53,223	39,508	22,241	6,152	4,766	4,745	1,604

市町村	区分 小 計	畜 産					加工 農産 物	養 蚕
		肉用牛	乳用牛	豚	に わ り と り	その他		
岡 山 市	5,217	234	2,067	824	2,051	41	162	0
総 社 市	1,141	257	119	117	638	10	1	4
高 梁 市	1,198	267	541	53	334	3	0	101
矢 掛 町	924	156	270	0	486	12	0	26
美 星 町	1,831	224	518	882	206	1	5	5
賀 陽 町	1,258	254	704	112	186	2	0	12
成 羽 町	240	70	118	12	40	0	0	39
川 上 町	827	90	195	2	536	4	0	41
備 中 町	652	195	65	334	57	1	0	31
計	13,288	1,747	4,597	2,336	4,534	74	168	259

（資料）生産農業所得統計による

第6表 市町村別製造出荷額等（昭和51年）

市町村	区分	表 造 品 出 荷 総 額 (万円)	従 業 員 数(人)	事 業 所 数	事 業 所 数 内 訳			
					食 料 品	繊 維	木 材 家 具	パ ル プ 出 版 印 刷
岡 山 市		43,923,991	40,031	2,497	371	237	243	270
総 社 市		8,112,586	8,180	318	37	60	35	10
高 梁 市		1,440,917	2,167	138	31	29	26	12
矢 掛 町		1,739,494	2,808	238	57	83	26	8
美 星 町		191,847	696	85	7	56	4	0
賀 陽 町		105,430	457	45	7	17	4	1
成 羽 町		466,511	864	47	8	12	6	4
川 上 町		176,687	552	45	5	10	3	1
備 中 町		117,887	265	34	3	25	1	0
計		56,275,350	56,020	3,447	526	529	348	306

市町村	区分	事 業 所 数 内 訳						
		石 油 化 学	窯 業 土 石	鉄 鋼 金 属	一 般 機 械	電 気 機 械	輸 送 機 械	そ の 他
岡 山 市		31	81	233	265	31	75	660
総 社 市		6	24	23	6	7	27	83
高 梁 市		1	8	14	4	3	1	9
矢 掛 町		1	11	11	2	9	2	28
美 星 町		0	1	6	0	1	0	10
賀 陽 町		0	1	0	0	5	1	9
成 羽 町		0	3	6	1	1	0	6
川 上 町		1	1	19	1	1	1	2
備 中 町		0	2	3	0	0	0	0
計		40	132	315	279	58	107	807

(資料)工業統計調査による

各 論

I 地 形 分 類

1. 地形分類と地形概説

(1) 地形分類の基準

地形分類は、次の表に示す定義に従って行った。

地形の分類		定 義
大分類	小分類	
山地・火山地	大起伏(火)山地	・縮尺5万分の1地形図(国土地理院発行)を縦横各20等分した方眼内における最高点と最低点の差(以下これを起伏量という)が400m以上の(火)山地
	中起伏(火)山地 小起伏(火)山地 (火)山麓地(I) (火) " (II)	・起伏量400mから200mを有する(火)山地 ・起伏量200m以下を有する(火)山地 ・起伏量100mから50mを有する(火)山麓部 ・起伏量50m以下を有する(火)山麓部
丘陵地	丘陵地(I)	・起伏量200mから100mを有する丘陵地
	丘陵地(II)	・起伏量100m以下を有する丘陵地
台地	岩石台地	・地表の平たんな台状又は段丘状の地域で基盤岩が出ているか又はきわめて薄く且つ軟弱な被覆物質でおおわれているもの
	砂礫台地	・地表の平たんな台状又は段丘状の地域で、厚く且つ、軟弱な砂礫層からなるもの
	石灰岩台地	・石灰岩からなる台状の地域で石灰岩特有の溶蝕形を示すもの
	火山灰砂台地	・火山灰砂礫の一次的堆積によってできた台状又は階段状の地域できわめて厚い火山灰砂礫からなるもの
	熔岩台地	・熔岩でおおわれ、周囲の崖で囲まれた台状の地域
低地	谷底平野	・谷底にある平たん面で現在河流の沖積作用が及ぶ地域
	扇状地	・山麓部にあって主として砂礫質からなる扇状の堆積地域
	三角洲	・河川の河口にあって主として泥土からなる低平な堆積地形の地域
	干河	・瀉又は湖の干上ったもの(干拓地及び塩田も含む)
	瀉原	・流水でおおわれることのある川ぞいの裸地
	磯浜	・汀線附近の平たんな裸岩地域 ・汀線附近の砂礫でおおわれた平たん地

山地と丘陵地との区別は一般に慣用的で確たる基準はない。本図幅の範囲では、吉備高原南縁の、海拔 200 m 程度以下の山頂・尾根の連なる小起伏地を丘陵地とし、さらにそれを表に定められた起伏量に従って、丘陵地(I)と(II)とに区分した。海拔 100 m 前後以下のものが丘陵地(II)に該当する。

表に従えば山地は起伏量を基準として、大起伏・中起伏・小起伏の各山地に小分類される。この分類基準は便宜的なもので、それによる分類には若干の問題がある。たとえば、ひとまとまりの山地であっても、一方の斜面と反対側の斜面との起伏量が大きく異なる場合には、尾根を境として両側を異った起伏の山地として表現せざるを得なくなる。なだらかで広い山頂部をもった台地状もしくは高原状の山地では、急峻な山腹斜面は、大・中起伏山地であり、それより高位の山頂を含む地域が小起伏山地として分類されたりする。また同高の山頂を連ねるひとまとまりの地域でも谷が浅くなるに従って、小さい起伏の山地として表現されるようになる。

吉備高原山地では、谷底平野から急斜面を登りつめると、緩起伏の波浪状の地形が展開する。このようなところでは、しばしば山腹斜面は中起伏山地、それより高い山頂部分は小起伏山地という配置をとる。したがって、これらに分ける境界としては、谷筋のみならず、尾根や山腹の傾斜変換線などが用いられる。一般に小起伏山地・中起伏山地などという用語からは、それぞれひとまとまりの山地を想起するが、ここではむしろ、山地のうちの小起伏の区域、中起伏の区域と理解するほうが望ましい。

吉備高原山地には、起伏量 100 m 未満の起伏のかなり小さい地域が存在する。まろやかな丘陵状の山頂・尾根と浅い谷とが、波打つように続く地域である。そのような地域については、「特に起伏の小さい地域」として表現した。

本図幅内には火山地は存在しない。また、火山灰砂台地・熔岩台地に該当する地形は存在しない。石灰岩は、図幅北西端に一部存在するが、台地として表現するほどの広がりをもたないので取り上げなかった。河谷に沿って薄い砂礫層をのせる断片的な段丘状地がところどころみられるが、図幅に表現するのに適当な広がりをもつものはほとんどない。現河床からの比高がきわめて小さい低位の沖積段丘は谷底平野に含めている。

表に示した以外では、麓斜面・崖錐・崖・遷移点・主要分水界などを記載した。

遷移点は、河床の傾斜度が急激に変化する地点のことであるが、本図に示したものは、5万分の1地形図に河川として表現されているもののみについて、遷急点(下流にむかって急になる地点)を記入した。

(2) 地形概説

本図幅は、吉備高原と呼ばれる高原状山地の中東部にあたる。海拔高度350m前後から450m程度の定高性の認められるなだらかな山頂・尾根が続く高原状の山地と、それより抜きんでて、ところどころに突出する海拔500m前後から600m程度の残丘状山地とがある。本図幅内の最高所をなす残丘状山地は北東部に位置する大和山608.4mである。吉備高原山地は南に徐々に高度を低める。その南縁には一段低く小規模な海拔200m以下の丘陵地があり、図幅の東南端には総社低地の一部がのぞいている。

吉備高原山地は隆起準平原といわれてきているが、その形成過程は単純なものではなく、それをめぐっての諸説がある。隆起準平原といっても、地形輪廻説における終地形としての準平原が完成したわけではなく、それに至る途中で隆起したものである。また異った水準の侵蝕小起伏面がいくつか認められ、多輪廻性の地形であることを示している。高原上の地貌は老年期山地的なところがあり、侵蝕小起伏面が幾段か認められる一方、山地を下刻する新輪廻の谷が入りこんだところでは、幼年期谷の様相が顕著である。

図幅内では、大まかに上位・中位・下位の三段の侵蝕小起伏面にわけることができる。300～450mの高さに広がる中位の面が最も広範囲を占める。高梁川の東の地域では、賀陽町から豪溪の天柱山または旧昭和町の延原・宇山にかけて広がる300～450mの波浪状の高原、高梁川の西の地域では、成羽川の北側にみられる神原・春木・松岡に広がる400～450mの面、美星町明治・黒忠・三山などの地域を中心とする350～400m前後の高原がそれである。これらの地域では、山砂利とよばれる砂礫層がかなりの面積を占めている。中位面の形成の解明には、この砂礫層が有力な手がかりとなろう。この面は吉備高原と砂礫層を研究した三野与吉(1933-48)のⅡ面(豪溪面・野田面・八日市面・松岡面)に相当する。

中位の侵蝕小起伏面に相当する高原状山地の上に抜きん出た残丘状山地がある。高梁川の西の地域で陣山(598.7m)、高村山(553.7m)、高丸山(541.5m)、竜王

山(504.6m)、高滝山(505.6m)、鶏足山(585.5m)などである。これらの山頂は丸みを帯びており、500～600mの高さに定高性が認められる。この定高性の認められる山頂面を上位の侵蝕小起伏面とする。三野与吉のいうⅢ面に相当する。また岡田篤正(1967)は、吉備高原中部で、そこに認められる侵蝕面を、吉備高原面(500～700m)、瀬戸内Ⅰ面(300～450m)、瀬戸内Ⅱ面(100～300m)、瀬戸内Ⅲ面(100m以下)に識別した。ここでいう上位面・中位面は、岡田のいう、吉備高原面・瀬戸内Ⅰ面に相当する。下位面は、おおよそ瀬戸内Ⅱ面およびⅢ面に該当しよう。

高梁川は、吉備高原山地を深く掘鑿し、小さく蛇行しながら流れる。図幅北辺近くの大瀬から高梁市街地までのしばらくはほぼ南流するが、東流してきた成羽川を合せて流向を南東に転じ、著しい急斜の谷壁をもつ典型的なV字型の欠床谷を形成して流れるが、次第に曲流して、その曲流の内側に狭い谷底平野を作り、やがて図幅の東南端で総社低地に出る。吉備高原山地内の河谷は、いわゆる旧輪廻の谷といわれる高原上の浅い谷と、新しい輪廻の下刻が及んで深い峡谷をなす谷とがある。両者の間には、明瞭な遷急点が認められる。浅い谷の地域は、小起伏山地に該当し、新輪廻の谷が入りこんだところは主として中起伏山地となる。

谷の走向は地質構造に支配されて、直線的に走るものが多く、おおまかにいって北東-南西方向の谷が卓越し、ついでそれに直交する方向の谷が目につく。

2 地形各論

以下、本図幅内を便宜上地域区分し、その主なものについて概略を述べる。地域名は仮称である。

〔西高梁山地〕 高梁川より西、成羽川より北の高梁市域にほぼ該当する部分の山地をいう。標高400mから450m前後の台状の山地で、尾根は起伏が小さく、波浪状につづく高原である。谷は浅く、緩傾斜地が多い。谷は台地縁近くで遷急点を持ち、台地縁を急流となって流れ下り、成羽川・高梁川に入る。定高性をもつ緩起伏の尾根が、中位侵蝕小起伏面である。ここに広く山砂利層が認められる。この面上に残丘状に抜きんでて、陣山(598.7m)と高村山(553.7m)がある。波浪状の尾根の部分は、おおかた起伏量200m以下で小起伏山地に区分されるが、高梁川・成

羽川に面する急峻な谷壁斜面および両河川から新しい輪廻の侵蝕が遡及した谷のところでは、著しい下刻のため、比高は 300 m を越え、中起伏山地に編入される。構成岩石は、高梁川石岸の花崗岩、それから西にかけて、神原西一鍋坂の変斑れい岩、高村山—大津寄の三疊紀層、後春木—松岡の安山岩、陣山付近の流紋岩質碎屑岩類などである。

〔東高梁山地〕 高梁川より東の高梁市域の山地で、南は河内谷によって限られる。西は高梁川に急峻な谷壁斜面で面し、北部は佐与谷が山地を深く刻みこんでいるので、起伏量は 300 m を越えるところが多く、中起伏山地に区分される。しかし、急峻な谷壁斜面を登りきると、標高 500 m 前後の高さに、定高性の認められる緩起伏の山頂が開ける。高梁川に面する急斜の部分の構成物質が花崗岩であるのに対して、波浪状をなす尾根の部分は流紋岩質碎屑岩類よりなり、地質の境界と傾斜の変換線がほぼ一致するようである。

〔賀陽山地〕 本図幅内の賀陽町域に広がりをもつ山地をいう。「岡山北部」図幅で吉川山地と命名した部分を含める。標高 350 ~ 450 m の定高性のある尾根が波浪状に広がる高原状山地で、この定高面が中位侵蝕小起伏面にあたる。この山地を構成する地質は、主として花崗岩類および流紋岩質碎屑岩類である。ところどころに残丘状の孤立山地が突き出ている。大和山 (608.4 m)、高陣山 (504.6 m) などである。全体として起伏量は小さく、小起伏山地に区分される。吉川や、西から北にかけて、西から岨谷にかけてなどの地域は特に起伏が小さく、起伏量 100 m 以下であり、地形分類図上で「特に起伏の小さい地域」として表現されている。これらの地域は、緩傾斜地が多く、谷は皿状のものが多く認められ、谷密度も低い。また山砂利層の分布が広く認められる地域である。

〔鶏足山地〕 本図幅のほぼ中央に位置し、高梁川左岸に比高 500 m 近い急峻な谷壁斜面をもって聳える鶏足山 (585.5 m) を中心とする大起伏山地をいう。高梁川に面する谷壁斜面は 40° 前後の極急斜面を多く含み、非常に急であるが、山頂付近は比較的緩斜であり、上位侵蝕小起伏面に相当すると考えられる。構成地質は、主として古生層とそれを貫く斑れい岩・石英閃緑岩などよりなる。

〔北成羽山地〕 成羽川の北の成羽町域に広がる台状の山地で、古生代石灰岩・三疊紀層・硯石層・安山岩等よりなる。大半は西隣の油木図幅に含まれ、本図幅で

は、その東のへりをのぞかせている。標高 450 ～ 500 m の高原の東端とその東斜面とである。

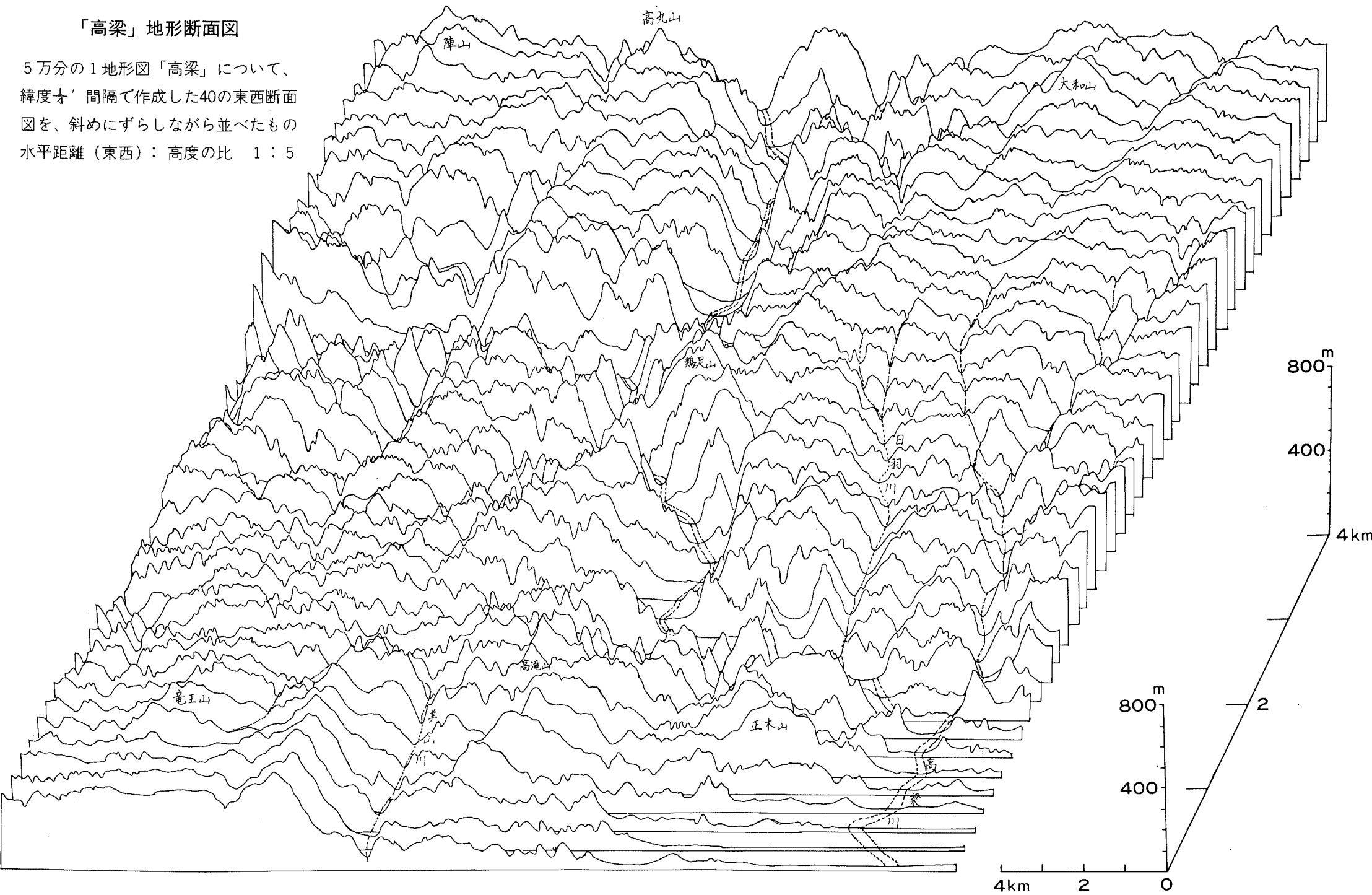
〔南成羽山地〕 成羽川より南に位置する山地で、西の領家川と東の高梁川とに挟まれた、川上町の東部から成羽町南部、高梁市南西部にまたがる地域を一括して南成羽山地と呼ぶことにする。標高 350 ～ 450 m 前後の山頂がつかぬ山地で、山頂部の緩起伏面は中位侵蝕小起伏面相当であるが、その面は、成羽川をへだてて北に位置する西高梁山地や、南に連担する美星山地に比較すると、はるかに断片的・小規模のものが多い。それは、成羽川・高梁川の支谷である日名川・大谷川・増原川などが侵蝕を前進させて、山地を切り刻んでいるからである。したがって起伏量は 200 m を越え、中起伏山地に区分される。高丸山 (541.5 m) は残丘的な高所である。構成地質は、古生層・変斑れい岩・三疊紀層・花崗岩などよりなる。川上町と成羽町の町境をなす尾根筋や、標高 350 ～ 450 m の山頂小起伏面には、山砂利層が認められるところが多い。

〔美星山地〕 本図幅の南西端、美山川より西方で、美星町域を中心に広がる山地を美星山地と呼ぶ。龍王山 (5046 m) と鳥頭の西から南へむかってのびている標高 500 m 前後の高所とを除けば、黒忠・三山から明治にかけて標高 300 ～ 400 m の波浪状高原をなし、小起伏山地に区分される。この連担する小起伏の尾根は、中位侵蝕小起伏面に相当する。山地上は緩斜面で構成され、岨谷は浅く、皿状のものも多く、谷密度は低い。三山から黒忠にかけては、特に起伏が小さく、標高差は 100 m 以下であり、地形分類図上には「特に起伏の小さい地域」として表現されている。この地域には山砂利層が広く分布している。この山地を構成する地質は、古生層・三疊紀層・花崗岩・石英閃緑岩などである。

〔北総社山地〕 総社市域で、高梁川より北東の部分に広がる山地を一括して北総社山地と呼ぶことにする。鶏足山の南東の種井の谷から日羽川までの間の山地、日羽川下流－横谷川下流間の山地、横谷川下流－足守川間の山地 (これについては、「岡山北部」図幅の地形地域区分で鬼城山地と呼んだ) の三つのブロックを含む。前二つのブロックは北の賀陽山地からほぼ連担している。450 ～ 300 m に中位小起伏面が認められるが、それはさらに二・三の段に細分できるかもしれない。高梁川の支谷の侵入が進んでいるので、小起伏面は寸断されている。起伏量は 200 m を越

「高梁」地形断面図

5万分の1地形図「高梁」について、
緯度 $\frac{1}{4}$ '間隔で作成した40の東西断面
図を、斜めにずらしながら並べたもの
水平距離（東西）：高度の比 1：5



えて、ほとんどが中起伏山地である。地質は、種井の谷から日羽の近くまで古生層を中心とするが、日羽より東は、ほとんど花崗岩類より構成されている。秋葉山の南は、明瞭な高度差をもって総社丘陵地に下る。総社丘陵地は、花崗岩類より構成され、標高 100 m 程度以下の小起伏丘陵地である。

〔西総社山地〕 美山川から高梁川にかけての、ほぼ総社市域に属する山地をいう。多くは標高 400 ~ 350 m に山頂を揃える。山頂部はいくらかの小起伏面を残しているが、高梁川の支谷によって刻まれており、連続したものは少ない。高梁川をはさんでの対岸と同様、中起伏の部分が広い。高滝山 (505.6 m) は残丘的な高所である。正木山は流紋岩類よりなるが、高滝山より南は主として花崗岩であり、北部は古生層と花崗岩の地域がある。この山地の南縁は、明瞭な傾斜の変換線をもっており、その前面に標高 100 ~ 200 m 前後の丘陵地がある。その南は新本川が氾濫原を広げており、総社低地とつながっている。

〔総社低地〕 吉備高原山地を嵌入する高梁川は、本図幅の東南隅で、秋葉山の西斜面につきあたり、流れを南にかえ、間もなく総社低地に出る。山地から出た高梁川はしばしば流路を変えて、氾濫原を涵養してきた。総社低地は自然堤防と後背湿地が交錯する低平な沖積平野である。ただし総社市街地の多くは、盛土などの人工が加えられている。西からは新本川をつくる沖積低地がこれに合している。

岡山大学教育学部 高橋 達郎

調査協力者 (黒瀬 祐子)
(高崎 小百合)

参考文献 (本文中で直接言及したもののみ挙げる)

- 三野与吉 (1935) : 岡山県成羽南方地域に於ける砂礫層と平坦面の関係。地学雑誌 47
- (1936) : 岡山県高梁町付近の地形。地理学評論 12-4
- (1942) : 地形原論—岩石床説より 観たる準平原論—古今書院
- 岡田篤正 (1967) : 吉備高原中部の地形発達。
東京大学大学院理学研究科修士論文

Ⅱ 表 層 地 質

1 表層地質概説

域内の地質は三郡変成帯に属すると考えられる低変成度の結晶片岩、非変成古生層と、これら諸岩類中に進入した夜久野進入岩類を基盤とし、基盤岩類を不整合（一部断層関係）におおう上部三疊紀層、関門層群（いわゆる硯石層）、白亜紀火山性岩類、これら上記岩類中に進入した白亜紀深成岩類（石英閃緑岩および花崗岩）が分布する。

洪積層は域内各地に分布し、古生界・中生界の岩石を不整合におおうが、とくに域内南西部に広く分布する。沖積層は高梁川、成羽川および豪溪川沿いに細長く分布するほか、域内各地に点在する。

結晶片岩（三郡変成岩）は1/5万皆部に分布するものより、更に低変成度で、準片岩ないし千枚岩に相当するものであり、域内中央部から南西部にかけて分布し、黒色千枚岩を主とするが、緑色千枚岩や砂質岩、石灰岩レンズを挟在する。この石灰岩レンズ中から石灰紀の示準化石を産する。地質構造は波長しないし2 km程度の過褶曲構造の繰返しよりなる。

非変成古生層は域内西北部に点在し、神原付近や高梁市西部のものは泥質岩、吉木付近、羽山川沿いのものは石灰質岩よりなるが、大部分は白亜紀花崗岩によってホルンフェルス化している。

夜久野進入岩類は域内南西部に広く分布するほか、域内中央部の高梁川沿いや域内北西部の成羽東部から神原にかけて分布する。

上部三疊紀層は域内西部の成羽・上日名・三沢にかけて広い分布を示すほか、域内北部の高梁市木野山、東部の有漢川沿いに分布している。

関門層群（いわゆる硯石層）は域内北西部の羽山を中心に広く分布する。

白亜紀火山性岩石は、高梁市・賀陽境いに広い分布を示すほか、成羽北部の陣山付近や総社市福谷付近に分布する。

白亜紀深成岩類は石英閃緑岩および花崗岩よりなり、石英閃緑岩は域内南西部の塚原・烏頭付近および域内北東部の田和下付近に分布する。花崗岩は域内北東部から南東部にかけて広く分布するほか、高梁市周辺、昭和町原、成羽南西部および総

社市福谷・新本周辺に広く分布する。これら深成岩類は白亜紀火山性岩石より古い岩石に対して接触変成作用を及ぼしている。

洪積層は域内南西部の成羽町・川上町境いの嶺線沿い、美星町黒忠付近に広い分布を示すほか、域内東部の賀陽町西山・野呂付近、域内各地に点在する。また、碎屑物（崖錐）は高梁市西部の市場付近に分布する。

2 表層地質各論

(1) 未固結堆積物（沖積世）

高梁川・成羽川・小田川沿いに発達するほか、日名川・日羽川・美山川・水内川沿いにも分布し、とくに高梁川と成羽川の合流点付近や、成羽周辺、昭和町原・美袋周辺、日羽周辺、総社市秦・井尻野・久代・溝田周辺に広い分布を示す。

一般に地表付近は砂利を主体とするが、ボーリング資料がないので不明である。

イ. 碎屑物（崖錐堆積物・洪積世）

高梁市周辺の市場・近似・八長・今津・松山・成羽町山本下、総社市藪田付近に分布する。主として現地性崩落物の径5～20 cmの垂角礫岩片と粘土および砂よりなる。岩片は成羽町山本下を除いて、大部分半風化花崗岩よりなるが、山本下のものは砂質岩よりなり、基質は多少石灰質の粘土よりなる。

ウ. 礫がち堆積物（洪積世）

域内西南部の美星町黒忠周辺、西部の成羽町・川上町境いの嶺線沿い、賀陽町南部の西山・野呂付近に広い分布を示すほか、域内各地に点在する。これらはいずれも“山砂利層”とよばれるもので、古生界の泥質岩、斑れい岩、中生界の砂質岩、泥質岩、花崗岩などの円礫（径10～50 cm）を含む未固結の礫岩層を主とするが、厚さ10～50 cmの粗粒砂層も2～3層挟在する。

(2) 固結堆積物（古生界・上部三疊系・白亜系）

ア. 泥質岩（上部三疊系）

域内南西部の成羽町南部の日名畑付近に広く分布するもので、上部三疊系日名畑層の主部を占める。この泥質岩中には、1～2 mのシルト質ないし細粒砂質岩を挟在するが、下日名付近ではこの泥質岩中から植物化石が多産する。このほか、数層（厚さ10～30 cm）の炭層を挟在する。

イ. 砂質岩・泥質岩互層（古生界・上部三疊系）

上部古生界の砂質岩・泥質岩互層は、域内中央部の高梁市舟津から上野、昭和町鍛冶屋・種井、南西部の美星町越山・中山にかけて分布する。単層の厚さ0.2~1m程度の互層よりなり、乱泥流堆積物の様相を呈する部分もあるが、弱い広域変成作用のえいきょうを受けて千枚岩質に移行している部分も多く、白亜紀花崗岩、石英閃緑岩との接触部付近は幅数100mにわたってホルンフェルス化している。

上部三疊系のもは、域内西部の成羽町高丸山・熊谷上・東枝・難波江、川上町日出谷下・三沢にかけて分布し、単層の厚さ数10cmの互層よりなるが、高丸山付近では白亜紀花崗岩の進入接触を受けて幅数100mにわたってホルンフェルス化し、挟在する炭層は黒鉛化している。

ウ. 礫質岩（上部三疊系・白亜系）

上部三疊系の礫質岩は成羽南部に広く分布しており、上部三疊系成羽層群の下部を占める最上山層にあたる。主として礫質岩よりなり、砂質岩・泥質岩の薄層を数層挟在する。礫粒は径2~4cmの円礫よりなり、チャート礫を主とし、泥質岩・砂質岩および少量の火成岩礫を含む。

白亜系の礫質岩は、関門層群（いわゆる硯石層）に属する石灰質礫を主体とし、赤褐色ないし緑色の凝灰質泥岩を基質とするもので、泥質岩や砂質岩（厚さ数m程度）を数層挟在する。成羽北部の羽山峠を中心に広く分布し、上部三疊系や古生界の堆積岩を不整合におおい、安山岩質岩や流紋岩質岩によって不整合におおわれる。

エ. 凝灰質岩（古生界）

域内南部の美星町宇戸谷から麦草にかけて分布する流紋岩質凝灰岩で、灰白色緻密な岩石であり、黒色千枚岩中に挟在する厚さ30~40mの岩石であるが、白亜紀花崗岩により、一部ホルンフェルス化している。

オ. 石灰質岩（古生界）

高梁市日名大谷、下村、川上町三沢南方にレンズ状岩体として分布するほか、成羽町羽山・吉木・下新山付近にも露出している。このうち吉木付近のものは白亜紀花崗岩による進入接触を受けて大理石化しており、スカルン鉱物を形成している。大部分の石灰質岩は結晶質であるが、一部非晶質のものもみられ、域内南西部の三沢南方の石灰質岩レンズ中から石炭系の有孔虫、成羽北部の羽山付近のものから二疊

系の有孔虫を産出する。

(3) 火山性岩石（白亜系）

火山性岩石は安山岩質岩と流紋岩質岩とに分けられ、前者が後者より古い。

ア. 安山岩質岩

域内西北部の春木、高梁市幡見、賀陽町南部の加門付近に分布し、安山岩質溶岩および同質火砕岩よりなるが、流紋岩質岩により不整合におおわれる。暗緑色ないし黒灰色を呈する溶岩および凝灰角礫岩質のものが多い。幡見・加門付近のものは、白亜紀花崗岩の進入接触により、幅数100 mにわたってホルンフェルス化している。

イ. 流紋岩質岩

流紋岩質岩は成羽北部の柴原、高梁市津川、高梁市・昭和町・総社市境いに広く分布するが、大部分流紋岩質火砕岩類よりなる。域内東部のものは白亜紀花崗岩によって進入接触を受け、幅数100 mにわたってホルンフェルス化している。

(4) 深成岩類（古生界・白亜系）

域内には各種の深成岩類が広く分布しているが、古生界のものと、白亜系のものに分けられる。

古生界のものは、夜久野進入岩類に属する斑れい岩質岩、石英閃緑岩質岩および花崗岩質岩に分けられる。また、白亜系のものは石英閃緑岩質のものと花崗岩質のものに分けられる。

ア. 斑れい岩質岩（古生界）

域内南西部に広く分布するほか、域内北部の大津寄付近にも細長い分布を示す。中ないし粗粒の岩石で、夜久野進入岩類中の塩基性岩相で、角閃石などの優黒質部と斜長石などの優白質部による縞状構造が顕著である。

この岩石は域内南西部の鬼ヶ嶽付近では、白亜紀花崗岩や、石英閃緑岩による進入接触を受けて幅数100 mにわたってホルンフェルス化している。

イ. 石英閃緑岩質岩（古生界・白亜系）

古生界に属するものは、夜久野進入岩類の中性岩相（変石英閃緑岩）で、高梁川沿いの広瀬・舟津・高間・内宮付近に分布するミロナイト質の岩石であるが、この岩石は周囲の岩石に対して接触変成作用を及ぼしていない。

白亜系の石英閃緑岩質岩は、域内南西部の塚原・烏頭周辺および北東部の田和下・

納地に分布しており、周囲の岩石に対して接触変成作用を及ぼしているが、白亜系の花崗岩質岩によって進入接触を受け、ホルンフェルス化している。

ウ. 花崗岩質岩（古生界・白亜系）

古生界の花崗岩質岩は、域内南西部の宗、中央部の舟津付近にみられ、夜久野進入岩類に属する酸性岩相（変花崗岩）で、一般に珪長質で有色鉱物は非常に少ない。この岩石もミロナイト質で、周囲の岩石に対して接触変成作用を及ぼしていない。

白亜系の花崗岩質岩は域内各地に広く分布しており、優白質で中ないし粗粒のものが多。また、この岩石は古生界・中生界の岩石中に進入して、接触部から幅数 100 m にわたって接触変成作用を及ぼしホルンフェルス化しているが、域内西部の吉木付近に分布するものは古生界の石灰質岩との接触部に高温交代鉱床（磁鉄鉱およびスカン鉱物・山宝鉱山）を形成している。

(5) 変成岩類（古生界・白亜系）

域内に分布する変成岩類は、三郡変成帯に属する低変成度の千枚岩類（準片岩）が域内中央部から南西部にかけて分布している。白亜紀深成岩類（石英閃緑岩質岩および花崗岩質岩）に接する古生界の諸岩類および白亜紀の火山性岩類は、幅数 100 m にわたってホルンフェルス化している。

ア. 千枚岩類（古生界）

三郡変成岩に属する低変成度の千枚岩類は、域内中央部の舟津付近から南西部の黒萩付近にかけて分布している。一般に片状構造が発達し、剝理性に富み、微弱な線構造が発達するが、とくに黒色千枚岩は劈開面の発達も著しいが、黒色片岩にくらべて再結晶作用は著しくないし、微褶曲構造の発達も顕著でない。緑色千枚岩はやや片状を呈するが、緑色片岩にくらべて剝理性も弱く、再結晶作用も弱い。

イ. ホルンフェルス

白亜紀石英閃緑岩質岩および花崗岩質岩の分布する地域では、これら岩石に進入された古生界・中生界の堆積岩類、深成岩類、千枚岩類および火山性岩石は、接触変成作用を受け、接触部から幅数 100 m にわたってホルンフェルスに変化している。また、白亜紀石英閃緑岩質岩も花崗岩質岩と接する部分では、ホルンフェルスに変化している。

これらホルンフェルスのうち、泥質岩起源のものは、堅硬緻密で暗褐色を呈する

岩石に変化しているが、域内西部の石灰質岩起源のものは、粗粒（径 0.2~1.0mm）な結晶質石灰岩に変化し、スカルン鉱物の形成も著しい。

岡山大学理学部 光 野 千 春

Ⅲ 土 壤

1 山地、丘陵地の土壤

(1) 概 説

本地域の山地、丘陵地の土壤は、母材、堆積様式、断面形態などにより、5土壤群、11土壤統群に大別され、さらに27土壤統に細分した。

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
未 熟 土	粗粒残積性未熟土壤	2 統
	残積性未熟土壤	2 統
褐 色 森 林 土	乾性褐色森林土壤	5 統
	乾性褐色森林土壤(赤褐系)	2 統
	褐色森林土壤	10 統
	褐色森林土壤(赤褐系)	1 統
	褐色森林土壤(暗色系)	1 統
黒 色 土	淡色黒ボク土壤	1 統
	黒ボク土壤	1 統
赤 黄 色 土	赤 色 土 壤	1 統
グ ラ イ 土	グ ラ イ 土 壤	1 統

(2) 各 論

ア. 粗粒残積性未熟土壤

深層風化した花崗岩地帯特に総社市池田地区および小田郡矢掛町を中心とする中南部地域に広く分布し、また高梁市の南部地域にも局所的にかなり広く分布する。

(ア) 丸山1統(Mar1)：尾根筋の一部または傾斜の急な凸型斜面に局所的に見られ、かなり強度の表面侵蝕を受け、A層またはB層の一部を欠ぐ砂質の受蝕土壤で、林地の生産力は極めて悪く、一般に劣悪なアカマツ天然林が多い。

(イ) 丸山2統(Mar2)：丸山1統と同じ地域の緩斜面に広く分布し、土壤の表面侵蝕は弱度で、地力は若干恵まれた砂質の受蝕土壤である。地表植性およびアカマツの生育は、前者に比しやや良好である。

イ. 残積性未熟土壤

主に流紋岩地帯の山地に点在的に出現する。

(ア) 三石1統(Mit1)：尾根筋または傾斜の急な凸型斜面の一部に出現し、強度の侵蝕を受け、A層もしくはB層の一部を欠ぐ埴質～微砂質の受蝕土壌である。地表植生は貧弱で、アカマツ天然林の生育は一般に悪い。

(イ) 三石2統(Mit2)：三石1統と同じ地域の緩斜面にかなり広く分布し、土壌の表面侵蝕は前者に比し弱度で、地力は若干恵まれた埴質～微砂質の受蝕土壌である。アカマツ天然林の生育は、やや良好である。

ウ. 乾性褐色森林土壌

母材、土性、断面形態の相違により、次の5統に区分した。

(ア) 佐良山1統(Sal)：主に流紋岩地域の山腹上部に広く分布し、土性は埴質～微砂質の乾性土壌で、土層は一般に薄く、堅密である場合が多い。尾根筋の一部を除き、アカマツの生育はかなり期待できる。

(イ) 貴布禰1統(Kil)：安山岩および花崗岩地域の尾根筋や山腹斜面に広く分布する乾性土壌で、土性は砂質土～壤質で、アカマツの生育は比較的良い。また、クヌギの植栽可能地がかなりある。

(ウ) 森上山1統(Mo1)：黒色準片岩、緑色準片岩、粘板岩を母材とする古生層山地の山腹上部にかなり広く分布する乾性土壌で、土性は壤土の場合が多く、角礫を含み、土壌の理化学性は比較的良い。生育の良いアカマツ林が見られ、局所的にはヒノキ、クヌギの植栽可能地もある。

(エ) 箕地1統(Mi1)：第三紀層および第四紀層地帯における丘陵性山地の山腹上部に出現する乾性土壌で、円礫を含むが埴質であるため、土壌の理化学性は一般によくはない。アカマツの生育はやや良好であるが、有用広葉樹の導入により、林相の改善が望ましい。

(オ) 赤坂1統(Aka1)：深層風化を受けた花崗岩を母材とし、総社市池田地区および小田郡矢掛町を中心とする南部地域の山腹上部に広く分布する未熟土的様相の強い砂質の乾性土壌で、尾根筋の一部を除きアカマツの生育は良いが、マツクイムシの被害対策とシイタケ原木の生産および林地土壌の改善等をはかるため、有用広葉樹との二段林施策が望ましい。

エ. 乾性褐色森林土壌(赤褐系)

吉備高原台地および低山、丘陵地の安定した広尾根周辺の緩斜面にかなり広く分布し、赤褐色（5YR～7.5YR）の色相を呈する乾性土壌である。

(ア) 仙随山1統 (Sez1) : 主に花崗岩地帯の山腹上部の緩斜面に出現する **rBA・rBB** 型土壌で、A層は薄く、褐色～暗褐色を呈するも、B層は明褐色～橙色を呈し、微砂質～埴質で、礫を含むが、構造の発達が乏しい、一般にアカマツ天然林が多く、生産力は低い、従って、林地土壌の改善をはかるため、有用広葉樹の導入が望ましい。局所的には有効土層の深いところもあり、クヌギの造林可能地もある。

(イ) 八塔寺山1統 (Hat1) : 流紋岩、第三紀層堆積物を母材とする粘土質の **rBA・rBB** 型土壌で、山麓、台地あるいは山腹緩斜面に広く分布する。赤色風化の影響を弱度に受け、B層は橙色～黄橙色を呈し、堅密で土壌の理化学性は一般に悪い。アカマツ天然下種更新は可能であるが、生育はあまり期待できない。有用広葉樹との二段林施業等により、林地土壌の改善が望ましい。

オ. 褐色森林土壌

(ア) 佐良山2統 (Sa2) : 佐良山1統と同じ地域の山腹中部～下部に広く分布する **BD(d)** 型土壌である。土性は一般に埴質であるが、角礫を含み、土壌の理化学性はやや良好である。ヒノキの生育に適す。

(イ) 佐良山3統 (Sa3) : 佐良山2統と同じ地域の山腹下部および谷筋の崩積土に出現する **BD** 型土壌で、A層は比較的厚く、構造は発達し、水分条件に恵まれ、スギの植栽が可能である。

(ウ) 貴布禰2統 (Ki2) : 貴布禰1統と同じ地域の山腹中部～下部に広く分布する **BD(d)** 型土壌である。土性は砂質壤土～壤土で、角礫を含み、理化学性はかなり良い。ヒノキの生育は良好であるが、土壌が粗しょうのため、急斜面では崩壊の危険が高く、深根性の有用広葉樹の造林等による崩壊防止措置を考える必要がある。

(エ) 貴布禰3統 (Ki3) : 貴布禰2統と同じ地域の山腹下部および谷筋の崩積土に出現する **BD** 型土壌で、A層はよく発達し、礫を多く含み、水分環境に恵まれているため、土壌の理化学性は良く、スギの生育は比較的良好である。

(オ) 森上山2統 (Mo2) : 森上山1統と同じ地域の山腹中部～下部の匍行土に広く分布する **BD(d)** 型土壌で、礫質で理化学性が良く、スギ、ヒノキ特にヒノキの生育に適し、地位指数は16前後である。

(カ) 森上山3統(Mo3)：森上山2統と同じ地域の山腹下部または谷筋の崩積土に出現するBD型土壌で、備中広瀬を中心とする地域にかなり広く出現する。礫質でA層はよく発達し、水分条件に比較的恵まれ、土壌の理化学性は良好である。スギの生育に適し、地位指数は18~19である。

(キ) 箕地2統(Mi2)：箕地1統と同じ地域の山腹中部~下部に分布するBD(d)型土壌である。土性は一般に埴質であるが円礫を含み、暗褐色を呈する。A層は10cm前後に達し、構造も比較的発達し、ヒノキの生育に適す。

(ク) 箕地3統(Mi3)：箕地2統と同じ地域の山腹下部または谷筋の崩積土に局所的に出現するBD型土壌である。有効土層も深く、水分環境に恵まれ、土壌の理化学性はかなり良好で、スギの生育に適し、地位指数は18前後である。

(ケ) 赤坂2統(Aka2)：赤坂1統と同じ地域の山腹中部~下部に出現する砂質の未熟土の様相が一部見られるBD(d)型土壌である。ヒノキの植栽が可能であるが、伐期は若干長期を要し、林地施肥が望ましい。クヌギ等の有用広葉樹の植栽も考えられる。

(コ) 赤坂3統(Aka3)：赤坂2統と同じ地域の山腹下部または谷筋の崩積土に局所的に出現するIm-BD型土壌である。土壌の理化学性はやや良好で、スギ・ヒノキの植栽が可能であるが、伐期は若干長期を要する。クヌギの植栽も考えられる。

カ. 褐色森林土壌(赤褐色)

(ア) 仙随山2統(Sez2)：仙随山1統と同じ地域における山腹下部の崩積土に出現するrBD(d)型土壌である。一般の褐色森林土壌に比し、A層の発達はやや劣り、B層以下は明褐色~明赤褐色を呈し、埴質で礫を含むが堅密である。林木の生産力はやや劣るが、ヒノキの植栽は可能である。

キ. 褐色森林土壌(暗色系)

(ア) 井倉統(Iku)：石灰岩地帯の山腹斜面~山脚に出現するDR(d)・DR(W)型土壌で、暗赤色を呈し、埴質である。置換性石灰を多く含み、弱酸性で、A層はかなり発達するが、B層以下の理化学性は一般に悪い。ヒノキの植栽は可能である。

ク. 淡色黒ボク土壌

(ア) 聖望統(Sei)：黒色土壌の分布する地域の山腹下部に局所的に出現する

ℓBℓD型土壤で、A₁層は腐植の滲透により暗褐色を呈し、構造はやや発達するが、A₂層は黒褐色を呈し、構造の発達は乏しい、匍行土にはヒノキ、崩積土の水分条件の良いところには、スギの植栽が可能である。

ケ. 黒ボク土壤

(ア) 土橋統(Tsu)：山腹上部の安定した緩斜面および山麓部に局所的に出現するBℓD(d), BℓD(m)型土壤である。黒色～黒褐色の層が厚く、埴質～微砂質で、構造の発達は一般に乏しい。山腹上部の残積土、山麓部の緩斜面には、生育の良いアカマツが見られるが、匍行土においては、ヒノキの植栽が可能で、地位指数は14前後である。

コ. 赤色土壤

(ア) 種松山統(Tan)：安定した緩斜面に局所的に出現し、赤色風化された粘質な土壤でA層は薄い。B層以下は堅密で理化学性は悪く、林木の生育には適さない。人為的な施肥耕耘を加えて、収益性の高い畑地、樹園地として利用されることも考えられる。

サ. グライ土壤

(ア) 吉川統(Yos)：広い谷部の平坦面に局所的に出現するグライ層をもつ土壤で、地下水の影響により灰黄色を呈し、40～50 cmの深さに班鉄がしばしば見られる。イヌツゲ・カヤツリグサ類・イ類等の好湿植生が生立し、林木の生育には適さない。しかし排水溝の設置により一部の耐水性有用樹木の植栽が可能である。

岡山県林業試験場 木本弘一郎

2 台地および低地の土壌

(1) 概 説

本地域の土壌は、その断面形態、母材、堆積様式によりつぎの9土壌群、22土壌統群に大別され、さらに35土壌統に細分された。

土 壌 群	土 壌 統 群	土 壌 統
黒 ボ ク 土	表層腐植質黒ボク土壌	2 統
多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土壌	1 統
褐色森林土	細粒褐色森林土壌	2 統
灰色台地土	細粒灰色台地土壌	2 統
	中粗粒灰色台地土壌	2 統
	礫質灰色台地土壌	3 統
グライ台地土	細粒グライ台地土壌	3 統
	中粗粒グライ台地土壌	1 統
	礫質グライ台地土壌	1 統
黄 色 土	細粒黄色土壌	2 統
	中粗粒黄色土壌	1 統
	礫質黄色土壌	1 統
	中粗粒斑紋黄色土壌	1 統
褐色低地土	中粗粒褐色低地土壌	2 統
	礫質褐色低地土壌	1 統
	中粗粒斑紋褐色低地土壌	2 統
	礫質斑紋褐色低地土壌	1 統
灰色低地土	礫質灰色系灰色低地土壌	1 統
	細粒灰褐系灰色低地土壌	1 統
	中粗粒灰褐系灰色低地土壌	2 統
	礫質灰褐系灰色低地土壌	1 統
グ ラ イ 土	中粗粒強グライ土壌	2 統

(2) 各 論

ア. 黒ボク土

本土壤群は、主として高原台地の緩傾斜面または波状平坦地に分布し、表層を覆っている非固結火成岩を母材とする腐植層の厚さは普通 25~50 cm であるが、50 cm 以上のものもみられる、風積性土壤である。

(ア) 表層腐植質黒ボク土壤

表層の腐植含量 5~10% で、土性は粘質または壤質で高原台地の緩傾斜面に分布し、畑地、草地として利用され生産性は低位である。俵坂統、桜統が属する。

イ. 多湿黒ボク土

本土壤群は主として沖積低地または高原丘陵間の平坦凹地に分布し、表層を覆っている非固結火成岩を母材とする腐植層の厚さは普通 25~50 cm であるが、50 cm 以上のものもみられ、土層中に斑紋が見られる水積または風積性土壤である。

(ア) 表層腐植質多湿黒ボク土壤

表層の腐植含量 5~10% で、土性は粘質で高原丘陵間の平坦地に分布し、水田として利用され生産性は中~低位である。三輪統が属する。

ウ. 褐色森林土

本土壤群は、主として高原丘陵の傾斜面に分布し、暗褐色の表層下に黄褐色の B 層をもつ崩積または残積性土壤である。

(ア) 細粒褐色森林土壤

土性が強粘質または粘質で高原丘陵の傾斜面に分布し、畑地、草地として利用され生産性は中~高位である。貝原統、上統が属する。

エ. 灰色台地土

本土壤群は、主として台地上または山間棚田に分布し、全層またはほぼ全層が灰色または灰褐色を呈し、斑紋をもち、0~60 cm 以下に礫層を持つ場合もある崩積または残積性土壤である。

(ア) 細粒灰色台地土壤

土性が強粘質または粘質で、丘陵台地または山間棚田に広く分布し生産性は中位である。小向統、喜久田統が属する。

(イ) 中粗粒灰色台地土壤

土性が壤質または砂質で、丘陵または山間棚田に広く分布し生産性は中～低位である。長笹統，桑部統が属する。

(ウ) 礫質灰色台地土壤

0～60 cm 以下に礫層をもち、土性は粘質または壤質で、山間棚田に広く分布し生産性は中位である。長田統，塩田統，関口統が属する。

オ. グライ台地土

本土壤群は、主として山地、丘陵台地の棚田に分布し、表層から少なくとも80cm 以内に青灰色のグライ層をもち、0～60 cm 以下に礫層をもつ場合もある崩積または残積性土壤で、湧水面は50～70 cm である。

(ア) 細粒グライ台地土壤

土性が強粘質または粘質で、高原丘陵または山間棚田に広く分布し、湿田または半湿田で生産性は低位である。吉井統，滝川統，橋本統が属する。

(イ) 中粗粒グライ台地土壤

土性が壤質で、山間棚田に分布し、湿田または半湿田で生産性は低位である。太田統が属する。

(ウ) 礫質グライ台地土壤

0～60 cm 以下に礫層をもち、土性は粘質または壤質で丘陵台地の棚田に分布し、湿田または半湿田で生産性は低位である。蓬平統が属する。

カ. 黄色土

本土壤統は、主として丘陵台地の傾斜面または山間棚田に分布し、畑地は暗色を呈しない表層下に黄色のB層をもつ残積性土壤で、水田は暗色を呈する作土下に黄褐色のB層をもち、斑紋が認められ、0～60 cm 以下に礫層をもつ場合もある残積または崩積性土壤である。

(ア) 細粒黄色土壤

土性が強粘質または粘質で、丘陵台地の傾斜面に広く分布し、畑地、草地として利用され生産性は中位である。大原統，八久保統が属する。

(イ) 中粗粒黄色土壤

土性が壤質で、低山、丘陵台地の傾斜面に広く分布し、畑地、樹園地、草地として利用され生産性は低位である。大代統が属する。

(ウ) 礫質黄色土壤

0～60 cm 以下に礫層をもち、土性は壤質または砂質で山麓傾斜面にわずかに分布し、畑地、樹園地として利用され生産性は低位である。菅出統が属する。

(エ) 中粗粒斑紋黄色土壤

土性が壤質で斑紋をもつ崩積性土壤で、丘陵台地または山間棚田に分布し生産性は中～低位である。都志見統が属する。

キ. 褐色低地土

本土壌群は主として沖積平野に分布し、全層またはほぼ全層が黄褐色を呈し、斑紋または0～60 cm 以下に砂礫層をもつ場合もある。水積性土壤である。

(ア) 中粗粒褐色低地土壤

土性が壤質または砂質で斑紋はなく、大河川の自然堤防上に分布し、畑地、樹園地として利用され生産性は低位である。芝統、飯島統が属する。

(イ) 礫質褐色低地土壤

0～60 cm 以下に砂礫層をもち、土性は壤質または砂質で、自然堤防上にわずかに分布し、畑地、樹園地として利用され生産性は低位である。二条統が属する。

(ウ) 中粗粒斑紋褐色低地土壤

土性が壤質または砂質で斑紋が認められ、沖積平野に分布し生産性は中～低位である。三河内統、長崎統が属する。

(エ) 礫質斑紋褐色低地土壤

0～60 cm 以下に砂礫層をもち、土性は壤質または砂質で斑紋が認められ、沖積平野にわずかに分布し漏水性大で生産性は低位である。井尻野統が属する。

ク. 灰色低地土

本土壌群は、主として河岸平野に分布し、全層またはほぼ全層が灰色または灰褐色を呈し、斑紋をもち、0～60 cm 以下に砂礫層をもつ場合もある。水積性土壤である。

(ア) 礫質灰色系灰色低地土壤

土色が灰色で0～60 cm 以下に礫層をもち、土性は粘質で河川沿いの沖積地にわずかに分布し生産性は中位である。久世田統が属する。

(イ) 細粒灰褐色系灰色低地土壤

土色が灰褐色で、土性は強粘質または粘質で、沖積平野に分布し生産性は高位である。金田統が属する。

(ウ) 中粗粒灰褐系灰色低地土壤

土色が灰褐色で、土性は壤質または砂質で、河岸沖積平野、河川沿いの沖積地に広く分布し、老朽化が進み生産性は中～低位である。安来統、納倉統が属する。

(エ) 礫質灰褐系灰色低地土壤

土色が灰褐色で、0～60 cm 以下に砂礫層をもち、土性は壤質または砂質で河川沿いの沖積地にわずかに分布し、老朽化が甚だしく生産性は低位である。松本統が属する。

ケ. グライ土

本土壤群は、主として河岸平野の排水不良地、丘陵間の低地に分布し、表層から少なくとも80 cm 以内に青灰色のグライ層をもち、斑紋の認められる水積性土壤で、湧水面は50～80 cm である。

(ア) 中粗粒強グライ土壤

全層または作土を除く全層がグライ層で、土性は壤質または砂質で、湧水面は高く湿田または半湿田で生産性は低位である。滝尾統、片桐統が属する。

岡山県立農業試験場 平岡正夫

IV 傾 斜 区 分

傾斜区分図の作成方法は次の通りである。作業基図としては5万分の1地形図を用い、100 mごとの計曲線の間隔を、傾斜尺度定規を滑らせながら計測し、7段階（3°未満、3°-8°、8°-15°、15°-20°、20°-30°、30°-40°、40°以上）に区分した。等高線間隔が著しく広い場合や、100 mごとの計曲線の間でも、明確な傾斜変換が認められる場合などは、20 mごとの主曲線間隔について傾斜尺度を用いて区分した。計測に際しては、尾根と谷とに挟まれたひとまとまりの斜面を単位とするよう留意したが、細かい山ひだの所では、小さな斜面は無視せざるを得なかった。計測単位としての斜面についての見方、くり方は、作業者によって差がある。地形図に崖として表現されているところは、必ずしも正しい広がりを表わしていないきらいがあるが、40°以上の階級として区分した。

本図幅内で急な傾斜地は吉備高原山地を掘鑿してつくる河谷の谷壁斜面である。

高梁川は吉備高原山地を嵌入蛇行して全体として南東方向に流れる。その河谷の両側谷壁斜面は急斜面が連続する。備中川面市場より高梁市街地にかけては、花崗岩地域を掘鑿しており、ところどころ狭い谷底平野を広げ、麓屑面的ないしは崖斜面的斜面も多く存在するので、比較的緩傾斜の部分を含んでいる。ただし臥牛山の西斜面は急斜面が連続し、40°以上の極急斜面を含む。高梁川が高梁市街地を離れて、高倉山を迂回し、成羽川を合せるあたりから、谷壁斜面は著しく急斜となる。ことに高倉山と鶏足山の高梁川に面する斜面は特に急で40°を越す極急斜面が連続し、河谷は典型的なV字型の欠床谷をなす。この部分の山地は、主として古生層とそれを貫く古生代-中生代の侵入岩類より構成される。種井・原附近より下流では狭い谷底平野がみえはじめ、谷壁斜面もやや傾斜を減じはじめる。高梁川は、秋葉山西斜面につきあたってから流れを南に転じ、間もなく総社低地に出る。

成羽川は西より流れて、高倉山の西で高梁川と合流する。その谷壁斜面も急で、その傾向は上流において著しいが本図幅の範囲でも30°以上の斜面が大部分を占める。

高梁川、成羽川にそそぐ支流の谷壁斜面も急斜面をもつ部分が多い。とくに急斜なのは、流紋岩山地を掘鑿している佐与谷および、古生層山地を深く刻みこんで流

れる増原川・影谷川などの斜面である。総社低地近くで高梁川に合流する榎谷川も急斜の谷壁斜面をもつが、とくにその支流の豪溪川では、花崗岩山地を刻んで、 40° 以上の極急斜面を連続させ、断崖溪谷の美しさを誇っている。

小田川に注ぐ美山川では、宇戸谷付近から鬼ヶ岳ダムにかけて、 30° 以上の谷壁斜面がみられる。

以上のように吉備高原山地を下刻する新輪廻の谷の谷壁斜面が急傾斜であるのに対して、対照的に吉備高原山地の山陵部は緩斜面が広い。

とくに緩傾斜の地域は、図幅の南西部を占める美星町三山から黒忠にかけておよび北東部の賀陽町の一帯で、 15° 以下の緩傾斜の山地であり、 8° 以下のところもみられる。ここは、小起伏山地のうち「特に起伏の小さい地域」として区分したところとほぼ一致し、いわゆる波浪状の高原をなすところである。これらについて緩傾斜の地域は、図幅の北西部の高梁市神原から松岡、陣山集落にかけての小起伏山地である。以上の緩傾斜地域は、海拔 $300 - 450 \text{ m}$ に位置する吉備高原山地の中位面（三野与吉のⅡ面、岡田篤正の瀬戸内Ⅰ面）に相当し、小起伏の波浪状の地形がしばしば観察されるところであり、山砂利とよばれる砂礫層の存在に特徴をもつところである。

吉備高原山地の南をふちどり、花崗岩より構成される海拔 200 m 以下の丘陵地も、緩斜面を多くもつ。とくに起伏量 100 m 以下の小起伏丘陵はまろやかな山容をみせる。

おおまかにみて、起伏量と傾斜との相関は比較的高いようである。

岡山大学教育学部 高橋 達郎

V 水系・谷密度

水系図は次のような方法で作成した。5万分の1地形図で、等高線が高いほうにへこみをもつ部分を谷と認定し、その道筋をたどって水系図を描いた。この際、2.5万分の1の地形図で作成した水系図と空中写真とを参考にして補正を行っている。どの程度の等高線の屈曲までを谷と認めるかは、作業者によってある程度の差があり、恣意的な選択が入り込むことがあるのはやむを得ない。かつ作業基図である地形図の等高線の表現そのものにも差があるようである。したがって、この水系図から計算した谷密度の数値の利用は、同じ図幅内での相対的な比較程度に止めるのが妥当であろう。

谷密度は水系図に各辺40等分した方眼をかけ、各方眼を切る谷の数をかぞえ、その値を4区画ずつ合計して得た数であらわした。

本図幅内の主要水路は高梁川と成羽川である。大部分の地域が両河川の水系にはいる。ただし、図幅北東端の吉川の地域（吉川川、加茂川—鳴滝川上流）、極楽寺の地域（湯山川）は宇甘川に集水され、旭川の水系にはいる。宇甘川と佐与谷川の分水界は図幅北縁付近の開けた谷の中に位置する。図幅の南西部は、美山川や星田川の上流域で、これらの川南隣の図幅内に流下して小田川に注ぐが、やがて高梁川に合する。

高梁川は吉備高原山地を、地質構造に支配されながら倣入蛇行する。全体として南東方向へ流れるが、高梁市街地付近では南流している。成羽川は本図幅内では、ほぼ東へ流れ、高倉山の西で高梁川と落ち合う。おおまかにいえば、古生層地域ではV字型の欠床谷をなすが、花崗岩地域では谷はやや開け狭い谷底平野がある。

高梁川、成羽川の谷壁斜面は急傾斜であり、この急斜面に懸る谷は、本流とは直交方向に、短小で急な谷をなし密度も小さい。したがって、高梁川、成羽川沿いの狭い谷底平野の谷壁斜面を含む方眼の地域は、谷密度が低い地域となる。

谷密度の高い地域が広いのは、波浪状の高原をなす美星町明治より北側の山地で、影谷川・増原川・大谷川・日名川などの上流域にあたる。主として古生層よりなる山地で、現輪廻の谷が活発に侵蝕作用を進めて、壮年期的地貌を呈している。谷密度階級50—59によって占められ、60を越す部分もある。ついで、流紋岩山地を深

く切り込んでいる佐与谷の地域や、高梁市街地の東の花崗岩山地を刻む谷の発達した地域、また日名川の大古屋より上流の流紋岩の山地などは、谷密度階級50以上のところが多い。

谷密度の小さい地域は、総社低地とその周辺の丘陵地であり、ついで、前述したように、高梁川、成羽川沿いの狭い谷底平野と急傾斜する谷壁斜面を含む地域が、20-29および30-39の谷密度階級で占められる。吉備高原で波浪状の起伏を呈する部分も谷密度は低い。美星町三山を中心とする地域や賀陽町の吉川地域、賀陽町大和山周辺の浅い旧輪廻の谷の開けた地域など、30-39の谷密度階級のところが多い。これら吉備高原上の谷密度の低いところは、地形分類で「とくに起伏の小さい地域」として示したものと重なるところが多い。

岡山大学教育学部 高橋達郎
(調査協力者 村上良子)

VI 防 災

防災図には地すべり防止区域、砂防指定地、流路工、治山構造物、重要水防区域、崖、河床勾配の遷移点及び大雨による湛水地域等を図示した。

地すべり防止区域は高梁市5ヶ所、美星町1ヶ所に指定がなされており、砂防指定地は高梁川水系の槇谷川・新本川・佐与谷川・日羽川流域・美山川流域・旭川水系の加茂川流域・湯山川流域等に存在し流路工約18ヶ所、砂防えん堤約62ヶ所が施行されている。

又主な治山構造物として山腹工事約131ヶ所、治山えん堤約142ヶ所が施行されている。

この区域のダムとしては、美星町美山川にかんがい防災を目的とした鬼ヶ岳ダムが昭和45年に建設されているほか現在、賀陽町に落合ダム（かんがい）槇谷ダム（かんがい、防災）の建設が計画されている。

高梁川、成羽川等の沿岸は昭和47年災害では非常に大きい災害を受けた地域であり、その後河川改修等が行われており、高梁川の総社市中村、豪溪地区の一部は重要水防区域に指定され管理に万全を期することとしている。又これらの河川及びその支流の沿岸付近を中心に常時湛水地域が現在も相当存在している。

地すべり防止区域

区域名	位 置	指定面積(ha)	指定年月日	所 管
宇 戸	小田郡美星町宇戸	7.60	S47. 3. 3	建設省
福 地	高梁市落合町福地	30.40	S48. 6.25	＼
玉 川	＼ 玉川町下切	6.80	S34.12.22	林野庁
大 成	＼ 玉川町下切	8.34	S38. 5.21	＼
大 寄	＼ 松原町大津寄	12.61	S41.10.22	＼
野 坂	＼ 落合町福地	17.38	S48. 4. 9	＼

ダ ム

種別	水系名	河川名	ダム名	目 的	ダム及び貯水池の規模			
					高さ (m)	長さ (m)	総貯水量 ($10^3 m^3$)	有効貯水量 ($10^3 m^3$)
治水	高梁川	美山川	鬼ヶ岳	かんがい 洪水調節	39.0	96.0	1,414	1,290

重要水防区域（直轄河川関係）

水系名	河川名	区 域	延長 (m)	危険状況	担当水防 管理団体	担当地方 振 興 局
高梁川	高梁川右岸	総社市中村	530	漏 水	総 社 市	倉敷地方振興局
＼	＼ 左岸	総社市豪溪	800	堤防高不足	総 社 市	倉敷地方振興局

VII 開 発 規 制

開発規制図には、国立・国定公園、県立自然公園、自然保護（保全）地域、国有林、保安林、鳥獣保護区、史跡、埋蔵文化財、宅地造成工事規制区域、都市計画区域等を図示した。

この図幅には、国立公園、国定公園はないが吉備文化発祥の地として古くから文化が開け、広い範囲に古墳、遺跡等が多在している吉備史跡県立自然公園区域が含まれるほか、溪谷美で知られる高梁川、成羽川沿いの区域、猿の生息地として知られる臥牛山及び備中松山城跡などからなる高梁川上流県立自然公園区域も含まれている。また、国指定の名勝として総社市の榎谷、上房郡賀陽町にまたがる「豪溪」小田郡美星町、矢掛町にまたがる「鬼ヶ嶽」があるほか自然と一体となって郷土色豊かな風土を形成し、県民に親しまれる地域として賀陽町北具足山地域が郷土自然保護地域として指定されている。

国有林は高梁市佐与谷山、臥牛山、陰地山及び賀陽町、総社市にまたがる西山地域の約 500ha からなっている。保安林は主として土砂流出防備林と水源かん養保安林が主ではあるが、高梁市広瀬の落石防止保安林、高梁川沿岸に見られる水害防止保安林などからなっている。

鳥獣保護区は高梁市稻荷山、上房郡賀陽町の高陣山地域が指定されているが、この図幅内には特別地域はない。この図幅には宅地造成工事規制区域はないが総社市（旧昭和町地区を除く）、矢掛町、高梁市（市街地）が都市計画区域として指定されている。国指定の名勝として前記の豪溪、鬼ヶ嶽のほか高梁市に頼久寺がある。史跡としては、高梁市の備中松山城跡（国指定）、高梁基督教会堂（県指定）、順正寮跡（県指定）があり、天然記念物として高梁市臥牛山の猿生息地（国指定）、川上郡成羽町、小田郡美星町にまたがる成羽の化石層（県の指定）及び川上郡成羽町の枝の不整合（県の指定）がある。埋蔵文化財も総社市の古墳群をはじめとし、約 180 カ所を数え遺跡等が多在している。

県立自然公園

公園名	面積	内特別地域 面積	指定年月日	関係市町村
吉備史跡県立 自然公園	2,400.25 ^{ha}	0	S41.3.25	岡山市・倉敷市・総社市
高梁川上流 県立自然公園	13,478 ^{ha}	2,953.75 ^{ha}	S41.3.25	高梁市・新見市・芳井 町・備中町・北房町・ 成羽町・川上町

県自然保護（保全）地域

指定区分	指定地域名	面積	指定年月日
郷土自然保護地域	具足山地域（上房郡賀陽町北）	2.53ha	S52.3.31

鳥獣保護区

名称	地域名	面積	指定年月日
高梁市稻荷山鳥獣保護区	高梁市	270ha	S51.3.16～S61.3.15
高陣山鳥獣保護区	上房郡賀陽町	820ha	S50.1.1～S60.10.31

VIII 土地 利用 現 況

本図幅は高梁市、総社市を主体として小田郡（矢掛町、美星町）、上房郡（賀陽町）、川上郡（成羽町、川上町、備中町）及び岡山市の一部を包括している。

土地利用現況図には土地の利用形態を農地、草地、林地、市街地、集落、ゴルフ場、河川、道路等に区分し、その細分を図示した。

この地域の南部は県南広域都市区域に含まれ市街化が進んでおり、総社市には水島機械金属工業団地があるほか県土地開発公社による住宅団地造成及び民間開発による食品製造工場、住宅団地などの造成が見受けられる。その周辺は農業が盛んで水田・樹園地（ブドウ・桃）畑（野菜・桑）等の高度の土地利用が図られている。

一級河川高梁川が図幅の北から南東部へと流れておりそれと平行して国道 180 号線及び国鉄伯備線が沿っており、その附近にわずかではあるが平たん地があり、集落として発達している。比較的大きな集落として高梁市、成羽町が見られる。美星町、賀陽町には大規模な人工草地が造られているほか、成羽町、川上町のたばこ畑美星町の養豚団地などが目に止まった。山地は高梁市内山下地域に人工林が比較的多く見受けられるが、この図幅では全体的に地味が悪いアカマツ（天然林）や広葉樹（天然林）が多く見受けられ自然緑地としての大きな役割を果たしている。

その他、この図幅内には大規模土地開発として賀陽町にゴルフ場 1 ケ所がある。

土地利用の概要（昭和50年）

（単位 ha）

区分 市 町 村	総面積 (A)	耕地計 (B)	耕地内訳			耕地率 B/A %	宅地	山林
			田	畑	樹園地			
岡山市	51,046	13,293	11,544	893	856	26.0	5,216	17,603
総社市	19,325	2,853	2,374	296	183	14.8	727	12,666
高梁市	22,899	2,074	1,230	710	134	9.1	314	17,661
矢掛町	9,019	1,488	1,033	370	85	16.5	272	5,824
美星町	7,322	1,217	654	522	42	16.6	98	4,669
賀陽町	12,726	1,936	1,439	471	26	15.2	187	8,581
成羽町	8,205	581	280	248	53	7.1	110	6,734
川上町	8,681	724	320	335	69	8.3	91	7,119
備中町	10,268	700	344	311	46	6.8	82	7,998
計	149,491	24,866	19,218	4,156	1,494	16.6	7,097	88,855

（資料） 昭和50年農業センサスによる（耕地面積）
宅地・山林面積は岡山県土地対策課調べ

史跡・名勝・天然記念物 (国・県指定)

番号	市町村	種別	名称	所在地	国・県指定区分
①	総社市	名勝	兼溪	横谷	国指定
〃	賀陽町	〃	〃	〃	〃
②	美星町	〃	鬼ヶ嶽	〃	〃
〃	矢掛町	〃	〃	〃	〃
③	高梁市	〃	頼久寺庭園	頼久寺町	〃
④	〃	史跡	備中松山城跡	内山下	〃
⑤	〃	天然記念物	臥牛山のサル生息地	〃	〃
⑥	〃	史跡	高梁基督教会堂	頼久寺町	県指定
⑦	〃	〃	順正寮跡	柿木町	〃
⑧	成羽町	天然記念物	成羽の化石層	成羽	〃
〃	美星町	〃	〃	明治谷	〃
⑨	成羽町	〃	枝の不整合	成羽	〃

埋蔵文化財包蔵地

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
1	総社市	古墳	塔坂1号墳~18号墳	小寺・東塔坂	51-1~51-18
2	〃	〃	井田1号墳~20号墳	〃・西新田	53-1~53-20
〃	〃	散布地	新池遺跡	井山	53-21
3	〃	古墳	兎登木1号墳~20号墳	〃・小寺・兎登木	54-1~54-20
4	〃	〃	浅尾1号墳~10号墳	小寺・浅尾	55-1~55-10
5	〃	城址	浅尾城址	〃	56
6	〃	古墳	井尻野1号墳~26号墳	浅尾・井尻野・山ノ端	57-1~57-26
〃	〃	〃	〃	井山・浜野・港井・城谷	〃
7	〃	城址	山根城址	桑	58
8	〃	古墳	山根古墳	〃	59
9	〃	寺院址	桑原庵寺	〃	60
10	〃	古墳	金子1号墳~8号墳	〃・金子	61-1~61-8
11	〃	〃	奥場1号墳~7号墳	〃・奥場	62-1~62-7
12	〃	〃	石塔塚	〃・南山	63
13	〃	〃	目田1号墳~4号墳	〃・目田	64-1~64-4
14	〃	〃	舟山1号墳~4号墳	久代・舟山	65-1~65-4
15	〃	〃	難波1号墳~10号墳	〃・茶	66-1~66-10
16	〃	〃	長砂1号墳~6号墳(長砂石棺)	〃・長砂	67-1~67-6
17	〃	散布地	難波遺跡	〃・長砂	68
18	〃	古墳	浦越1号墳~7号墳	〃・浦越	69-1~69-7
19	〃	〃	山口(三杉)1号墳~5号墳	〃・山口	70-1~70-5
20	〃	〃	横田古墳	〃・横田	71
21	〃	〃	古町1号墳~6号墳	山田・古町	80-1~80-6
22	〃	〃	中組1号墳~12号墳	〃・中組・市之出	81-1~81-12
23	〃	〃	布下1号墳~7号墳	新本・布下	82-1~82-7
24	〃	〃	木村1号墳~9号墳	〃・木村	83-1~83-9
25	〃	〃	大平1号墳~6号墳	〃・〃	84-1~84-6
26	〃	城址	大渡城跡	美袋・植松	85
27	〃	散布地	日羽ひじや遺跡	日羽・ひじや	86
28	〃	〃	柳谷奥遺跡	〃・柳谷奥	87
29	〃	古墳群	普門寺墓山古墳群	〃・城麓	88
30	〃	〃	平岩古墳群	〃・平岩	89
〃	〃	〃	片山古墳群	原・片山	90
31	〃	〃	助砂古墳群	〃・助砂	91
32	〃	古墳	山田奥古墳	〃・山田	92
33	〃	古墳群	若水山古墳群	〃・若水山	93
34	〃	〃	高田古墳群	〃・高田	94
35	〃	〃	八幡辻古墳群	〃・水内八幡宮付近	95
36	〃	〃	大迫山古墳群	〃・算場	96
〃	〃	古墳	大野山社旧跡古墳	〃・〃	97
37	〃	城跡	山本城跡	〃・片山	98

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
38	総社市	城跡	三本松城跡	原	99
39	〃	〃	要害城跡	〃	100
40	〃	散布地	塩田遺跡	下倉・塩田	101
41	〃	経塚	下村経塚	〃・下村	102
42	〃	散布地	今津散布地	津川町・津川	33
43	高梁市	古墳	今津古墳	〃・今津・本村	34
44	〃	散布地	〃	〃・〃・〃	35
45	〃	古墳	〃	〃・〃・〃	36
46	〃	散布地	〃	〃・〃・〃	37
47	〃	古墳	陣山第1号墳	松原町・陣山	52
48	〃	〃	陣山第2号墳	〃・〃	53
49	〃	散布地	陣山遺跡	〃・〃	54
50	〃	〃	〃	〃・〃	55
51	〃	五輪塔群	〃	〃・神原	56
52	〃	散布地	〃	〃	57
53	〃	墳墓	ソウドウ様	滝合町・福地	58
54	〃	古墳	赤羽根1号墳~4号墳	〃・阿部・赤羽	59~62
55	〃	井戸跡	〃	〃・〃・〃	63
56	〃	古墳	拝頭1号墳~3号墳	〃・拝頭	64~66
57	〃	〃	天神塚	〃・北山	67
58	〃	〃	北山古墳	〃・阿部	68
59	〃	散布地	阿部遺跡	〃・〃	69
60	〃	古墳	近似古墳	松原町・近似・日名	70
61	〃	散布地	大福寺前	〃・〃	71
62	〃	〃	〃	松山町・下谷	72
63	〃	〃	〃	〃・上谷	73
64	〃	古墳	〃	〃	74
〃	〃	散布地	〃	松山・増原・下村	75
65	〃	城跡	馬之城	松原町・西野々	90
66	〃	〃	阿部深山城	滝合町・原田	91
67	〃	〃	広瀬固屋	広瀬町	92
68	〃	〃	玉の城山	玉川町・玉・舟津	93
69	〃	〃	ツガン丸	〃・小切	94
70	〃	〃	陣山	松山町・陣山	84
71	〃	〃	秋町城	高倉町	85
72	美星町	墳墓地	〃	宇戸谷・森谷	4
73	〃	〃	〃	〃・下	5
74	〃	城址	宇戸谷茶臼城址	〃・中	6
75	〃	墳墓地	〃	〃・上	7
76	〃	〃	〃	〃・〃	8
77	〃	〃	〃	烏頭・上	9
78	〃	〃	〃	〃・〃	10
79	〃	〃	〃	〃・〃	11
80	〃	〃	〃	〃・〃	12
81	〃	〃	〃	〃・〃	13
82	〃	〃	〃	〃・中	14
83	〃	城址	上居山城址	〃・〃	15
84	〃	墳墓地	〃	〃・〃	16
85	〃	〃	〃	〃・下	17
86	〃	〃	〃	宇戸・上	18
87	〃	〃	宇戸狐山墳墓遺跡	〃・下	19
88	〃	〃	〃	明治・越出	20
89	〃	〃	〃	〃・〃	21
90	〃	〃	迫・野呂遺跡	〃・宗金	22
91	〃	〃	〃	〃・〃	23
92	〃	〃	〃	〃・境ヶ市	24
93	〃	〃	〃	〃・秋年	25
94	〃	〃	〃	〃・鳴石	26
95	〃	〃	〃	〃・下	27

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
96	美星町	墳墓地		明治・鳴石	28
97	〃	〃		〃・〃	29
98	〃	〃		〃・三田	30
99	〃	〃		〃・友成	31
100	〃	〃		〃・〃	32
101	〃	〃		明治・中山	33
102	〃	〃		〃・下絵具那	34
103	〃	〃		三山・又岡	35
104	〃	古墳	又岡古墳	〃・又岡	36
105	〃	墳墓地		〃・刈屋	37
106	〃	〃		〃・〃	38
107	〃	〃		〃・〃	39
108	〃	〃	高沢寺裏墓地遺跡	〃・高沢	40
109	〃	〃		〃・〃	41
110	〃	古墳	金定古墳	〃・金定	42
111	〃	墳墓地		〃・大元	43
112	〃	〃		〃・〃	44
113	〃	〃		〃・久重	45
114	〃	〃		〃・下田	46
115	〃	〃		〃・赤の谷	47
116	〃	〃		〃・〃	48
117	〃	〃		〃・〃	49
118	〃	〃		〃・谷下	50
119	〃	〃		〃・〃	51
120	〃	〃		〃・〃	52
121	〃	古墳		〃・塚原	53
122	〃	墳墓地		〃・〃	54
123	〃	〃		〃・名畑	55
124	〃	〃		〃・〃	56
125	〃	〃		〃・〃	57
126	〃	散布地		〃・〃	58
127	〃	墳墓地		〃・横道	59
128	〃	〃		〃・尾崎	60
129	〃	城址	城山城址	〃・〃	61
130	〃	墳墓地		〃・アゼチ	62
131	〃	〃		〃・宮迫	63
132	〃	〃		〃・〃	64
133	〃	古墳	宮迫古墳	〃・〃	65
134	〃	墳墓地		〃・〃	66
135	〃	建物址		〃・迫	67
136	〃	包蔵地	五万原遺跡	大倉・掛迫	68
137	〃	墳墓地		三山・吉田布郡	69
138	〃	〃		大倉・木舟	70
139	〃	〃		〃・小宇内	71
140	〃	〃	古屋遺跡	〃・〃	72
141	〃	〃		〃・野呂	73
142	〃	〃		〃・〃	74
143	〃	〃		〃・上組	75
144	〃	包蔵地		大倉・中谷	76
145	〃	墳墓地		〃・〃	77
146	〃	〃		〃・〃	78
147	〃	〃	石塔山遺跡	上高末・藁草	3
148	〃	墳墓		星田・平松	132
149	〃	墳墓地		黒忠・向組東	133
150	〃	墳墓		〃・〃	134
151	〃	墳墓地		〃・〃	135
152	〃	墳墓		〃・向組	136
153	〃	墳墓地		〃・本村	139
154	〃	〃		〃・〃	140

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
155	美星町	墳墓地		黒忠・本村	141
156	〃	〃		〃・〃	142
157	〃	城址	小笹丸城址	〃・城平	143
158	〃	墳墓地		〃・宗安中	144
159	〃	〃		〃・〃	145
160	〃	〃	八白市宝篋印塔	〃・八白市	150
161	賀陽町	城跡	野山古城跡	北・城山	3
162	〃	〃	野山城跡	〃・古和田	4
163	〃	住居跡	岨谷遺跡	岨谷・神田	5
164	〃	神社跡	古郡神社跡	吉川・布都	37
165	〃	城跡	大和山城跡	納地・大和山平	10
166	〃	散布地	御内野呂遺跡	吉川・藤田	29
167	成羽町	〃	佐原遺跡	成羽	1
168	〃	円墳	天王山古墳	山本	6
169	〃	〃	塚根山古墳	〃	7
170	〃	城址	鶴首城址	成羽	8
171	〃	陣屋跡	御殿跡	〃・御殿	9
172	〃	円墳	大谷古墳群1号墳・2号墳	〃・大谷	20-1・20-2
〃	〃	〃	佐々木古墳群1号墳・2号墳	〃・佐々木	19-1・19-2
〃	〃	散布地	天神ヶ丘遺跡	扶天神ヶ丘	2
〃	〃	円墳	天神ヶ丘古墳	成羽枝	18
〃	〃	散布地	小御堂遺跡	成羽	3
〃	〃	〃	佐原遺跡	〃	4
〃	〃	〃	山本遺跡	〃	5
〃	〃	包蔵	古町ブラット遺跡	〃・古町	17
173	川上町	古墳	日出谷古墳	三沢・日出谷下	12
174	〃	散布地	日出谷下遺跡	〃・〃	13

(注) この資料は、昭和52年岡山県教育庁文化課資料による。

1978年5月 印刷発行

土地分類基本調査

高 梁

編集発行 岡山県企画部土地対策課
岡山市内山下2丁目4番6号

印 刷 (地図・説明書)
昇寿チャート株式会社
東京都台東区台東2丁目27番9号